

## 福井大学高度被ばく医療支援施設が完成しました。



西側外観



1階:トリアージ室



1階:除染室1



1階:WBC室2



1階:処置室1



2階:会議室2・事務室

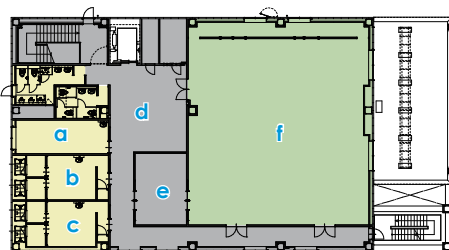


3階:研修室5

### PLAN

3階

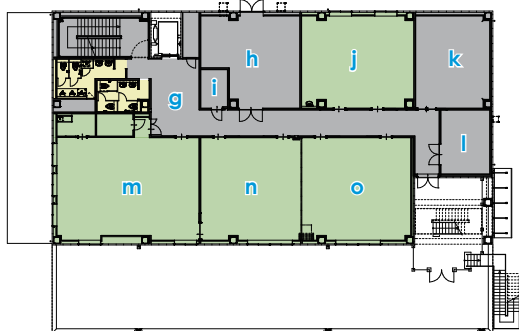
- a. 会議室2
- b. 更衣室1
- c. 更衣室2
- d. ホール3
- e. 倉庫・器材室3
- f. 研修室5



3F PLAN S=1:600

2階

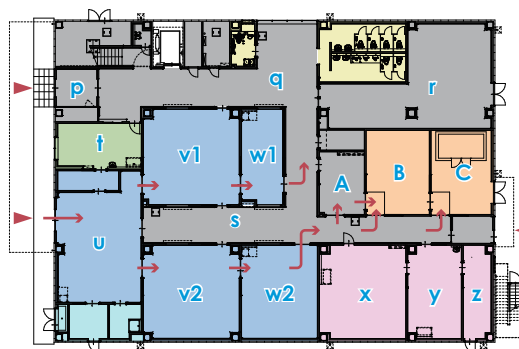
- g. ホール2
- h. 電気室1
- i. 電気室2
- j. 研修室3・4
- k. 倉庫・器材室2
- l. 排気機械室
- m. 事務室・会議室2
- n. 研修室1
- o. 研修室2



2F PLAN S=1:600

1階

- p. 風除室1
- q. ホール2
- r. 倉庫・器材庫1
- s. 通路・見学ホール
- t. 受付スタッフ室
- u. トリアージ室
- v1. 除染室1
- w1. 処置室1
- v2. 除染室2
- w2. 処置室2
- x. 検査室1
- y. 検査室2-1
- z. 検査室2-2
- A. 説明室
- B. WBC室1
- C. WBC室2



1F PLAN S=1:600

▶ 出入口



### CONCEPT

被ばく医療人材の育成と災害時受入機能を兼ね備えた施設計画

福井大学医学部附属病院は、ヘリポートを備えた原子力災害拠点病院であり、大学病院としては全国でも稀な1次から3次までの全救急を受け入れる北米型（ER型）救急体制を導入した特定機能病院として、県内医療の中核を担っています。また、「高度被ばく医療支援センター」の指定を受け、平時の専門人材育成とともに、原子力災害時には長期的かつ専門的な治療を要する被ばく傷病者の治療の実施が求められました。

本計画は、被ばく医療に対応できる医療従事者（医師・看護師・診療放射線技師等）を育成するための研修施設を整備するとともに、原子力災害発生時には被ばく傷病者の受入拠点としての役割を考慮した室配置としています。また、原子力災害時に緊急時支援の対策本部を設置できるよう、会議室や研修室の壁は可動間仕切壁とし、用途に応じて柔軟に対応しました。

### DATA

|       |                           |
|-------|---------------------------|
| 敷地面積  | : 270,230㎡                |
| 建築面積  | : 939.18㎡                 |
|       | (敷地全体: 51,851.82㎡)        |
| 延床面積  | : 2028.64㎡                |
|       | (敷地全体: 137,225.40㎡)       |
| 建ぺい率  | : 19.19%(許容70%)           |
| 容積率   | : 50.01%(許容200%)          |
| 構造・規模 | : S造・地上3階                 |
| 最高高さ  | : 14.10m                  |
| 軒高    | : 13.30m                  |
| 階高    | : 1階4.40m、2階4.35m、3階4.45m |
| 天井高さ  | : 2.7m、3.5m               |
| 主なスパン | : 7.0m×7.0m               |
| 設計期間  | : 2023.12～2024.06         |
| 工事期間  | : 2024.07～2025.02         |

### TOPICS

原子力災害発生時における被ばく傷病者の円滑な搬送・受入体制の確保  
原子力災害発生時には、トリアージ室前の駐車場を活用し、搬送された被ばく傷病者が待機できるスペースを確保しています。トリアージ室は駐車場から直接出入りできる計画とし、被ばく傷病者の汚染度に応じて二つの除染室へ振り分ける動線としています。除染室はトリアージ室に隣接配置し、直接の出入りを可能にしています。さらに、汚染度の高い傷病者についてはWBC室へ誘導し、放射性物質の測定を実施する計画とし、これら一連の機能を近接配置することで円滑な対応体制を確保しています。

写真提供/福井大学

▶ <http://www.nissoken.co.jp>